

第9回 江別市子ども・子育て会議要旨

開催日：平成26年12月25日（木）

時 間：午後3時～

場 所：江別市民会館37号室

1 開会

2 議事

- 土渕会長：それでは、これより議事に入ります。まず、次第の2、①「えべつ・安心子育てプラン（江別市子ども・子育て支援事業計画素案）について」事務局より説明をお願いいたします。
- 事務局：資料1「えべつ・安心子育てプラン（江別市子ども・子育て支援事業計画素案）」に基づき、事務局より説明。
- 会長：それでは、ただいまの説明について、質疑がございましたらお願いいたします。
- 委員：パブリックコメントの実施について、どれぐらいのご意見があると見込まれているのでしょうか。
- 事務局：広報を含めできる限り周知したいと考えていますが、具体的な件数については見込んでいません。
- 委員：パブリックコメントに子育ての世代からの意見を多く求めるのであれば、幼稚園・小学校・子育て支援施設などに出向いて説明会を行うことで、より活発な意見がいただけるのではないかと考えるのですが、どうでしょうか。
- 事務局：後ほどご報告させていただきますが、年明けの1月17、18、市内3か所で説明会を予定しています。その際に新制度全般の説明を利用手続の具体的説明を含め、パブリックコメントに対する周知の部分もこのあたりで工夫できるのでは考えています。
- 委員：江別市、北海道、全国の出生率が出ておりますけれども、江別は、北海道の中でも低い出生率になっています。20代から30代の若い世代の女性の有配偶率や出生率の低さは、市としてはどういう要因でと考えていますか。
- 事務局：合計特殊出生率について、出生率が低いという大きな理由の一つに、市内に4大学があり、大学学生が住民登録していることがあげられますが、その分を考慮すると、実際はもう少し高目にはなるのではと理解しています。
- 委員：パブリックコメントなのですけれども、お母さんたちが入りやすいような感じで歩み寄っていただければ、意見が集まりやすいかなと思います。
- 事務局：利用者に身近に感じられ、関心を引きやすいような説明や意見の募集の方法など工夫していきたい思います。
- 委員：5年間で定員391名から619人と増え、228名の受け皿を増やすということですが、具体的な確保案はどのようになりますでしょうか。
- 事務局：新しい制度で創設される0歳から2歳を対象にした19人以下の少人数の保育である事業地域型保育事業で一部を確保できるよう計画しています。市内で既に認可外保育所として運営している事業所のうち一定程度の基準を満たした施設や、事業所内保育所のうち従業員以外の地域枠の定員を設けていただいて新制度に移行していただくことで、27年度に向けては、70人から90人近くは定員ベースで確保できるのではないかと考えております。そのほかに、0歳から2歳の3号認定の定員を設けて認定こども園になる幼稚園も一部を想定し、計画しております。

- 委員：地域型保育事業で何か所か手を挙げているというお話だったのですけれども、具体的に例えば20名とか30名とか、具体的な数は見込まれているでしょうか。
- 事務局：まず、新制度で小規模保育C型に当たるフループ型保育事業を、本年度、2か所で実施しています。また、現在認可外保育施設ですけれども、わくわく保育パーク、それと事業所内保育になります。結いの家保育園など新制度移行に向けて協議をいただいているところであり、概ね70から90ぐらいは確保できると考えています。
- 委員：基本理念の「みんなで協力、子育て応援のまち・えべつ」を、周りの人がみんなで、子どもは社会の宝だというふうに受け止められたら、すごくいいなと感想を持ちました。かわって質問ですが、計画策定に向けた課題で解決に向けての中に、親にリフレッシュを目的とした託児サービスを子育てひろばに隣接して実施というところについて、実際利用がどれぐらいいて、日曜日の利用がどれぐらいあるのかということをちょっと教えていただきたいと思います。
- 事務局：この課題については、ニーズ調査や統計調査から見えてきた課題というものを書かせていただいております。この課題の解決に向けてというのは、一つ例として挙げさせていただいております。質問のあった子育てひろば「ぼこあぼこ」が子育て支援拠点施設、それに託児施設を併設した事業形態になっておまして、平成25年のオープン当時から木曜日と日曜日の週2回、託児を実施しています。この1年間の利用傾向を見ますと、木曜日の方の利用数が多く、日曜日は比較的少なく、合わせて月平均35件程度と押さえております。
- 委員：今、日曜日の利用は少ないというお話でしたけれども、実際にニーズ調査をしているのであれば、日曜日をちょっと控え目にして平日を増やすこととかはできないのでしょうか。
- 事務局：昨年実施したニーズ調査の中では、休日、土日の保育意向というのは一定程度ありました。昨年12月21日に「ぼこあぼこ」がオープンする前に、ニーズ調査とは別に幼稚園、保育園に通うお子さんがいらっしゃるお母さんを対象にアンケートを実施し、その結果を踏まえて、事業を設計してきた経過があります。そのアンケートの中で、子育て支援センターが土曜日、日曜日あいていけばいいなという声、それと土日に短い時間でいいので子どもを預ける場所があるといい、気軽に利用できる施設があればいいという声、実は多かったです。まだ、オープンして1年ですので、今後の利用形態見ながら実施曜日というものも検討していきたいと考えております。
- 委員：児童センターが7か所で、1,490人の利用で、1か所での利用人数が少ないということですが、冬場、どうしても公園が使えないので、子どもたちの行き場所というのがなくなるのですが、子どもたちが冬場でも遊べるようなそういう施設がどこかにあればいいかなと思っています。
- 会長：ほかにいかがでしょうか。特にないということでしたら、その他の方に移りたいと思うのですが、よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり)

3 その他

- 会長：それでは、その他に入りますが、事務局から何かありますでしょうか。
- 事務局：まず私の方から報告とあわせて次回会議日程のご案内をしたいと思います。年明けの1月17、18日になりますが、市内の3か所、大麻公民館、市民会館、コミュニティセンターで説明会を行う予定ですので、この場で報告させていただきます。この開催についてはホームページと1月広報でお知らせしておりますので、念のため申し上げます。また、次回の会議の日程につきましては、現時点では1月中旬に開催を予定しておりますので、日程が確定次第ご案内したいと考えております。次に、健康福祉部長から子ども・子育て支援の新制度における幼稚園の保育料につきまして説明申し上げます。

○健康福祉部長：本日、資料を用意できればよかったです。ぎりぎりまで内部調整していたものですが、資料が間に合いませんでした。平成27年度における幼稚園の保育料について、現時点での考え方をお話させていただきます。幼稚園の保育料は、5段階の所得階層に分かれて、それぞれの国の基準が0円から2万5,700円であることは、これまでの会議の中で説明してきましたので、ご承知のことと思います。現在の江別市内にある幼稚園の各階層における保育料の水準をみると、第1階層が0円で、それぞれ端数がつきますが、第2階層は3,300円余り、第3階層は10,300円余り、第4階層は15,000円弱、そして一番高い5階層で国は25,700円としています。江別市内の水準は2万弱という数字が出ております。そこで現段階では、平成27年度においては、現行の負担水準をベースに負担を決めていきたいと考えております。ただ、国の基準との差額というものを、一般財源というのですけれども、江別市が負担することとなります。私立幼稚園13園全園が新制度移行したときには、9,000万から1億近い財源が必要となる前提で試算しておりますので、それらを含めて今後、予算要求の中で調整させていただきたいと考えています。

○会長：ありがとうございました。今のお話、なかなかこれに責任持って答えるという段階ではまだないのかなと思いますが、何かございませんでしょうか。

○委員：次回、多分具体的な数字が出てくるのだと思うのですが、時間がないから丁寧な議論はできませんという形で設計されていくというのが一番心配だなと思っていて、そこを確認しておきたいと思うのですけれども、いかがでしょう。

○会長：ありがとうございました。その辺は恐らく、ここにいる委員あるいは事務局の方も思いは違わないのかなという気はしているのですけれども、確かに説明会が年明けにありますので、今後、ぎりぎりまでいろいろな内部的な調整、実際に予算の裏づけの問題とか、むしろ大変な作業をされるのだと思います。それでは、このことに関してはよろしいでしょうか。

（「なし」の声あり）

○会長：ほかになれば、事務局からのご連絡ということでは今のことでよろしいでしょうか。

○事務局：ございません。

○会長：それでは、次回1月中旬ということで、具体的には、個々にご連絡を、委員の皆様にご連絡を差し上げて日にちを決めるということになるかと思っておりますので、またよろしくお願ひしたいと思ひます。

4. 閉会

○会長：それでは、本日会議で予定している議事はこれで終了いたしました。次回もいろいろな動きが年明け早々から出てくると思いますが、皆様ご協力あるいはご出席、よろしくお願ひしたいと思ひます。それでは、第9回の子ども・子育て会議を終了いたします。